

組織目標評価報告書(平成29年度)

部局名: 情報統括センター

部局長名: 菅 誠 治

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
①全学の情報リテラシー教育の質向上に取り組む。 ②教育におけるICT環境を更に充実させ、円滑な教育へのICT活用を支援する。	①当センターが主導して、全新生を対象として情報リテラシー教育を実施した。特に近年重視されている情報セキュリティ対応能力の向上を図ることができた。 ②多人数の学生の持ち込みPCIによる、クラウドサービス等のインターネットサービス及び学内サービスの同時利用性能を向上するため、情報実習室、大教室のネットワーク利用時の認証手順見直しと、無線伝播設定の見直しにより、無線LAN環境を大幅に改善した。
①-2 全学の組織目標との関連	①-2 大学全体への貢献
1大学として定める目標②学びの強化のための諸施策の実施に貢献する。 2理事が自ら掲げる目標【教育担当理事】①学術情報・設備・環境を活用した学修・教育体制の強化に貢献する。	①当センターの教員が主導することにより、各部局の情報処理入門を担当する教員の負担が大幅に軽減した。 ②全学に対して高度なICT環境を安定して提供することができた。
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
授業におけるICT活用件数 動画アーカイブ件数と利用件数	①授業におけるICT活用に関しては、充実したICT環境を備えた情報実習室を提供した。 ②動画アーカイブに関しては、授業収録システムの機能確認を行い、他大学の実施例などの簡易な手段を調査した。
②研究領域	
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
①最新の情報セキュリティ対策技術の研究と実践。 ②ICT技術の新たな教育支援に関する研究。 ③ネットワーク、認証を統合した新しいICT運営基盤の研究。	【論文・発表】 ・河野 圭太, 稗田 隆, 中村 素典, "ShibbolethとOpenAMの連携による認証レベルを制御可能なシングルサインオン基盤の構築," 学術情報処理研究, no.21, pp.71-81, Sept. 2017. ・稗田 隆, 岡山 聖彦, 河野 圭太, 村上 昌己, 藤原 崇起, "岡山大学におけるグローバルIPアドレスの削減に関する取り組み," 第21回学術情報処理研究集会 発表論文集, pp.37-44, Sept. 2017. ・標的型メール攻撃によるセキュリティインシデントへの対応訓練 9/26 第12回国立大学法人情報系センター研究集会及び第21回学術情報処理研究集会 【講演等】 ・「岡山大学における多要素認証の導入に向けた取り組み」, 第11回統合認証シンポジウム, Mar. 2018. ・岡山市・サンノゼ市姉妹都市締結60周年記念事業 岡山発 情報通信シンポジウム パネルディスカッション 9月10日 【科研】 基盤研究(C) プログラム変換を用いたソフトウェアセキュリティの改善手法についての研究
②-2 全学の組織目標との関連	②-2 大学全体への貢献
1大学として定める目標④研究大学「岡山大学」の構築に貢献する。	全学に対して高度なICT基盤を安定して提供することができた。
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
ICTを活用した新サービス実施件数 科研費の採択件数 論文発表件数・学会等活動件数	①科研費の申請に関しては原則、全教員が申請することになっている。 ②論文発表や学会活動等についても積極的に関わっている。
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
①ICTに関する公開講座を実施するなど地域支援を推進する。 ②地域と協働した情報セキュリティ対策を実施する。 ③全国規模の研修会、研究会を開催する。	①ICTに関する公開講座は、「パソコンでゲームを作ろう」幅広く情報セキュリティ技術を学ぶ」の2講座を無料で開講し、小学生からお年寄りまで77人が受講した。受講後のアンケートでは、回答者の82%が、「とても満足」「満足」と回答している。 ②国立大学法人等情報化連絡協議会の中国地区の副幹事校として、3月8日開催の地区会議の取りまとめを行った。
③-2 全学の組織目標との関連	③-2 大学全体への貢献
特になし	市民に対して最新のICT情報を分かり易く提供することで大学のイメージアップを図ることができた。
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
公開講座の受講者数と評価内容	公開講座に関しては、ホームページや山陽新聞の情報ひろば等を使って広報を行っている。 小学生からお年寄りまで77人が受講し、受講後のアンケートでは、回答者の82%が、「とても満足」「満足」と回答している。
④センター業務	
④-1 目標	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
①学内ネットワークを更新する。 ②更なる情報セキュリティ対応技術の向上を目的とした教育を実施するとともに、CSIRT活動の定着を図る。 ③岡山大学情報データベースのデータ(教育、研究、管理運営等)の蓄積と、データ活用を支援する。 ④学内のICTサービスの利用促進とヘルプデスクによる学生・教職員への支援を充実する。	①老朽化した学内ネットワークを更新し障害によるネットワークの停止リスクを回避するとともに、ネットワークの信頼性の向上及び情報セキュリティ強化も図ることができた。 ②情報セキュリティ技術向上研修にCSIRT職員3名が参加すると共に国立情報学研究所などの外部セキュリティ対策組織との連携を強化し、CSIRTのセキュリティ対応能力や情報収集能力を強化した。 ③学生の標準修業年限内卒業率の可視化をBIツールにより試行し、多様な情報の可視化手順を検証した。また、SGU指標や高度実践人、業務システム等の40案件へ要望に応じて柔軟に情報提供を行うと共に、新たに派遣留学支援・海外渡航登録システムの構築により、グローバル関連情報の収集を実現した。 ④当センターのICTサービスを総覧した岡山大学ICTサービス読本を作成し、学内のICTサービスの利用促進を図った。
④-2 全学の組織目標との関連	④-2 大学全体への貢献

<p>2理事が自ら掲げる目標【大学改革担当理事】② 情報戦略機能の強化に貢献する。</p> <p>2理事が自ら掲げる目標【大学改革担当理事】③ 情報セキュリティの強化に貢献する。</p> <p>2理事が自ら掲げる目標【大学改革担当理事】④ 情報ネットワーク基盤の整備</p>	<p>①全学に対してセキュアな情報ネットワーク環境を提供することができた。</p> <p>②全学の情報セキュリティ強化について大いに貢献した。</p> <p>③全学のIRの基礎データの提供に関して貢献した。</p> <p>④全学の利用者に対するICT環境の改善に貢献した。</p>
<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p>
<p>情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の認証更新、CSIRT活動実績</p> <p>ネットワークの安定性、利便性の評価結果</p> <p>大学戦略へのデータ分析による支援件数</p>	<p>①セキュリティマネジメントシステムの認証更新については、更新を行った。</p> <p>②ネットワーク、サービスの安全性に関してはICT運用管理グループが中心となり、監視システム等を活用して対応している。</p> <p>③IR/IE室と意見交換を行っている。40案件の要望に応じて情報提供を行った。</p>
<p>【総括記述欄】</p>	
<p>教育領域、研究領域、社会貢献領域及びセンター業務に関して、上述したとおり、良好であると判断している。</p> <p>「センター業務」の情報セキュリティ分野に関しては、情報セキュリティ基本計画を順調に実施しており、未実施は情報セキュリティ監査のみとなっている。</p>	